


	先天性股関節脱臼の予防について	1ページ
	ダイエットシフォンケーキ／『花の会』3月の活動です／今月のイチオシ図書	2ページ
	今月の植物を探せ!vol.9／糖尿病フポイントアドバイス／春の肥満教室のお知らせ／「糖尿病教室3月」のお知らせ	3ページ
	新任医師自己紹介／アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ

先天性股関節脱臼の予防について

赤ちゃんの股関節（胴体と足をつなぐ股の関節です）がはずれていることを先天性股関節脱臼といいます。しかし、先天性となっていますが、**実は生まれてから、つまり後天性にはずれていくことが多い**ということがわかってきました。

股関節脱臼は、一部の赤ちゃんを除いて、関節弛緩（関節のゆるみ）や臼蓋形成不全（股関節の屋根の発育が不十分）に加えて、出生後のオムツの種類や巻き方、赤ちゃんの抱き方などの育児習慣によって生じるという考えが有力です。

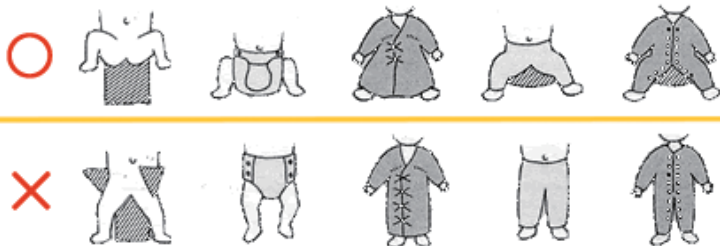
したがって、**先天性と病名がついていますが、**

生後の脱臼予防が大切になります。足を無理に伸ばそうとせず、**自然に曲げ、股を開いた状態で、自由な運動を促すことが重要です。**

では、具体的にどのようなことに気をつければよいのでしょうか？まずは、オムツやベビー服からご説明しましょう。

オムツ・ベビー服

生後から股オムツや、ゆったりとしたベビー服を用います。巻きオムツやきついズボン、おくるみは使わないようにします。しかし、股の間にたくさんのオムツをあてて無理に股を開かせるのは危険です。オムツが下にずれて、結果的に巻きオムツのように、足を伸ばすことにもなります。



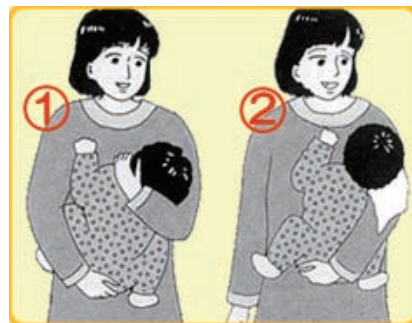
〈石田勝正先生作成パンフレットより〉

コアラ抱っこ

次は抱っこの仕方です。

お母さんと向かい合わせにして抱っこしてあげてください。頤がすわるまでは、少し斜めで向かい合わせにすると、頤が安定します。手を股間に入れての横抱きよりも効果的です。

コアラ抱っこと自由な下肢の運動で股関節脱臼を予防しましょう。



〈石田勝正先生作成パンフレットより〉

（整形外科 西山 正紀）